



俳句づくりを楽しむ

第32回テーマ： 六甲山で俳句をつくろう

講演内容

- ①六甲山の自然と親しむ
- ②六甲山記念碑台周辺を
吟行しよう
- ③身近にある俳句

実施日：平成17年11月19日（土）
午後12時30分～3時
場 所：六甲山自然保護センター
レクチャールーム



講師：^{はんだ}半田 ^{はるお}陽生さん

プロフィール

1935年神戸生まれ。1984年俳句誌、九年母会入会。主宰：五十嵐播水、現主宰：五十嵐哲也に師事。1994年同人、課題句選者。日本伝統俳句、神戸芸術文化会議の会員。

六甲山の冬日和

午前中は「半田陽生さんの六甲山俳句教室」が開かれました。18名が集まり、九年母会の半田陽生さんにご指導いただきました。俳句についての説明の後、記念碑台周辺の散策路を約1時間吟行しました。外の気温は7度と寒く、携帯カイロをポケットに忍ばせて俳句づくりを楽しみました。

吟行後は、俳句を大短冊に書いて披露しました。昼食タイムでは寒かったせいもあり、用意していたカップラーメンが大好評でした。



皆の俳句を詠みあげる半田さん

半田さんのお仲間が手本を見せてくれた

午後のセミナーは25名が参加。はじめに、俳句で使う言葉の読み方をクイズ形式で紹介いただきました。見たこともない言葉が多く、答えを聞いては「なるほど」と納得の連続でした。

クイズの後は句会をしました。参加者の中には半田さんの俳句仲間もおられ、ベテランの豊かな表現力と感性にほれほれしました。

和気あいあいの句会

句会は和気あいあいの雰囲気で行いました。皆の俳句を回し読み、各自が気に入った句を選びました。全員真剣な表情で、いつになく静かなセミナーでした。俳句づくりは悪戦苦闘しましたが、初心者も俳人（芭蕉）の真似事？を満喫しました。

六甲山の楽しみ方のモデルがまた増えた

六甲山で五感をめぐらせ、感じたことを俳句にする体験ができました。記念碑台周辺の散策路は距離的にも吟行に向いており、今後も句会を催してほしいという声もあがりました。六甲山でスローライフを楽しむ有力なモデルを見つけました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 藤井 啓子さん

「六甲山自然保護センター」のドアを開けると中は和気藹々。お弁当やラーメンを食べる方、コーヒーの深い香りもしている。講師の半田さんをはじめ皆さんが笑顔で迎えてくれた。こんな温かい集いがこんな山の上であるなんて、今まで神戸に住みながら知らなかった。机には木の実や真っ赤な紅葉や末枯れたあじさいが置かれ、参加者も登山靴というのも山の句座ならではの。親切なご指導とてきばきた運びでとても充実した会であった。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
(財)大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山で俳句をつくろう



散策路を吟行

第32回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：12:45～13:00
2. 講演：13:00～13:15
3. 句会：13:15～15:25
4. 交流会：15:25～15:00

講演

- ①六甲山の自然と親しむ
- ②六甲山記念碑台周辺を吟行しよう
- ③身近にある俳句（句会）

午前中は「半田陽生さんの六甲山俳句教室」

参加者の大半が午前中も参加。散策路のボランティア清掃も兼ねて、ゴミ袋片手にゆっくりと吟行した。自然保護センターに戻った後は、半田さんに俳句について解説をしていただいた。

■俳句って？

最近、俳句人口の増加が著しい。女性の教育レベルの向上や、経済的・時間的にゆとりができたことが大きい。日本は四季がはっきりしており、俳句を嗜む環境に叶っている。

■俳句の約束

俳句の約束は、五七五の十七音による定型詩であること、季題・季語を必ず詠み込むこと、自然や風土・風物の正しい季節感を詠むことだ。季重なりをできるだけ避け、音や色、香りの要素を取り入れて、リズム感のよいものにする。

秋の季語：霧、秋の雲、晩秋、山粧ふ、紅葉など
冬の季語：初冬、北風、短日、枯葉、鼻水など

市民セミナー：講演内容

1. あいさつ（半田さん）

俳句誌「九年母」で20年以上俳句を詠んでいます。俳句は型にはまったものではありません。基本的なルールを守り詠みましょう。



半田陽生さん

2. 言葉のクイズ

まずは頭の体操として言葉のクイズから始まった。配付されたプリントには「蝨蝨」「蟹蝨」など見たこともないような言葉がズラリ。頭を悩ませるが、わからない。答えを聞いて納得した。

■言葉の読みと答え（一部）

ひともし：ネギのこと。**ながむし**：蛇のこと。
南五味子：さねかずら。美男葛とも。**蟹蝨**：はたはた。**蝨蝨**：きりぎりす。**衣魚**：しみ（虫）。
虫出：むしだし。立春後、虫が出てくる頃の雷のこと。**山鯨**：やまくじら。猪鍋。お寺が「肉」といわないため。薬食いとも言う。**柴漬**：ふしづけ。「しばづけ」ではない。柴の小枝の束を水に漬けておき、寄って来た魚を獲るという漁法。

問題の言葉は、歳時記の傍題から選んだそうだ。歳時記の題は目に留まるが、傍題まではなかなか見ないという。傍題には語数の長いものや短いものが色々あり、俳句を詠むのに重宝するそうだ。

3. 六甲山記念碑台周辺を吟行

自然保護センターを出て、記念碑台周辺で吟行に出発した。30分間散策し、最低でも3句、多い人で5句を詠むことにした。景色をじっくりと観察して、俳句の素材になりそうなことをメモする。後でメモを見ながら俳句を詠んでいく。

当日は秋晴れに恵まれて、記念碑台からの神戸の景色は澄んでいった。風が強く、寒さに震えながらの吟行となった。



記念碑台で俳人氣分



景色を見つめる澤田さん

4. 俳句会

自然保護センターのレクチャールームに戻って暖を取り、各自が俳句を詠む。ベテラン勢がスラスラと5句を短冊に書いていくのを尻目に、事務局スタッフなどの素人勢は3句詠むのがやっと。

俳句を詠んだら、いよいよ俳句会。「互選」で「選」を決め、「披講」でそれぞれの選を発表する。



みんな集中（いつもとちょっと違う静かな市民セミナー）

■互選

まず①自分の句を短冊に書く。名前は書かない。②短冊を折りたたんで、全員分を一箇所に集める。③自分の詠んだ句の枚数分、集めた俳句から取る。④取り出した俳句を別紙に書き写す。これを「清記」という。次に自分の「選」を決めていく。⑤清記を見て、良いと思う句があれば、「選」に加えて、⑥隣の人に清記を回す。

互選では清記を見るので、誰が書いた句か分からず、先入観無しに句を選べる。全員の俳句から自分の選を5句決めたら互選は終了。みんな真剣な表情でひとつひとつじっくりと読む。

■披講

続いて披講。互選で決めた「選」を半田さんが「○○さん選」として句を読んでいく。自分の句が選ばれた人は、選者への礼儀として名乗りでる。披講では参加者の多くが入選し、満足した様子だった。

参加者全員の選を読んだ後、半田さんが決めた選を発表した。

■半田陽生選（一部）

ベテラン揃いの中で、不得手と言っていた「活用する会」の会員も大健闘で何人かが入選した。

落ち葉踏み森の手入れの行き帰り	浄
おみやげに懐炉配らる俳句会	伊東茂子
柿干して山の日溜り何でも屋	朋子
小春日におお手ひろげるケヤキの本	久保
湿りたる落ち葉小径小暗かり	西出茂子
玻璃越しに冬日のどく句座の席	悦子
冬木の芽山風に耐えたくましく	光子
冬風や日矢射すところ新空港	ひとみ
紅葉濃しとはまだ言えぬ六甲に	かおる
山迫る小径とれば笹鳴す	美代子
ようこそと六甲連峰冬紅葉	北山
ラーメンをすすり初冬の俳句会	佑太



自分の句が詠まれたら名前を言う

参加者の声

- ・こんな会があることを知らなかった。また機会があれば参加したい。(西出茂子さん)
- ・句会に参加したのは今回が2回目。和気藹々とした雰囲気はとても楽しかった。(富岡穰さん)
- ・俳句や短歌は高校時代から好きだったが、俳句会に参加したのは今回が初めて。自然を舞台にみんなが色んなことを思い描いてやるのは面白いと思った。(平岡凡夫さん)

まとめ（半田さん）

天気が良く、適当に寒くて俳句をつくるのには真に結構な日和でした。六甲山は市街地からすぐに来れるし、標高が高いので季節が早い。俳句は季節の先取りをするので、俳句に適したところだと思います。ひとりひとりが気づいたことをやって、これからも六甲山を守っていければいいと思います。

参加の感想 香西 直樹さん

小春日の六甲山にて、吟行とボランティアのゴミ拾いを兼ねてサンセット通りを散策した。慣れない俳句に戸惑いながら、経験豊富な方の俳句を拝聴していると、やはり言葉の豊かさや表現力の違いに驚かされた。



ボランティアで山の案内人をしていられる者として、新たな視点で自然に触れることができ、今後の活動に活かされるものと期待を膨らませております。このような貴重な機会を提供していただいた関係者の皆様にお礼申し上げます。

事務局より

俳句は全くの素人で、新鮮な体験でした。俳句を詠むのに頭をひねりながら、自分がいかに言葉に無関心であったかに気付きました。俳句を詠むという六甲山の楽しみ方は新しい発見です。多くの人をお誘いしたいものです。(佑太)

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ ・歳時記
- ・清記用紙、短冊
- <午前の部>
- ・メモ帳、筆ペン、大短冊
- ・カイロ



いろいろな歳時記

◆参加者：25名（順不同・敬称略）

半田 陽生	久保 紘一	香西 直樹	大谷安規永
浅井 審一	下村 光子	澤田 中	岩水ひとみ
高見 悦子	中村美代子	坂本 朋子	伊東 茂子
西出 茂子	岡本かおる	岩崎 千子	藤井 啓子
富岡 穰	辻山 桂子	村上 定広	八木 浄
平岡 凡夫	北山健一郎	堂馬 英二	堂馬 佑太
菖蒲 美枝			



半田さんを囲んで記念撮影